



# 2017年3月期 第2四半期決算説明会資料

株式会社オプティム

## 免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略等はいずれも作成時点で入手可能な情報を基にした予測であり、これらは経済環境、競合状況、新サービスの成否などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績および戦略は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。また、本資料に記載されているマーケット情報などに関わる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。



- 2017年3月期 第2四半期決算レビュー
- 2017年3月期 成長戦略
- 2017年3月期 業績見通し
- 【参考】2017年3月期 第2四半期 取り組み実績



# 2017年3月期 第2四半期決算レビュー



# 2017年3月期 第2四半期決算レビュー①

創業来17期連続となる過去最高売上高、6期連続増益に向けて好調に推移

(単位：百万円)

	2016年3月期 第2四半期 実績	2017年3月期 第2四半期 実績	第2四半期 実績 前年比	2017年3月期 通期予想	通期予想 対前年比	2017年3月期 第2四半期 時点達成率
売上高	1,229	1,577	128.3%	3,200	122.1%	49.3%
営業利益	276	370	134.1%	640	118.9%	57.8%
経常利益	276	367	133.0%	640	118.5%	57.3%
純利益	172	175	101.7%	434	150%	40.3%

ライセンス収入については、Q1・Q2共に前年比で135%以上の成長率を示しております。



## ■ 過年度法人税等の内容について

- ・ 佐賀税務署による平成25年3月期から平成28年3月期までの課税年度における税務調査において、研究開発費で計上している案件の損金算入時期などで指摘を受け、更正通知を受ける見込みとなりました。
- ・ 税務当局からの指摘につきましては、見解の相違する部分もありますが、当局からの指摘を受け入れる予定であります。
- ・ このため平成29年3月期において過年度法人税等を147百万円（過少申告加算税、延滞税含む）計上することにいたしました。なお、金額は当社が試算した見積り計上額であります。
- ・ 当社としましては、今回の指摘事項を謙虚に受け止め、再発防止に努めるとともに、税務コンプライアンスのさらなる強化に取り組んでまいります。



# 2016年度 成長戦略



1. 既存サービスも順調に市場が拡大している。この機に安定的な収益をしっかりと伸ばす
2. IoT/AI/Robot分野への投資を強化し、第4次産業革命の中心となる企業となる。また、あらゆる産業とOPTiMの持つIoT/AI/Robotテクノロジー・ノウハウを融合させる「○○×IT」によりITの力で新しい産業基盤を創造する
3. 合併会社設立による営業力強化による販売拡大、新サービスの創造を推進する



1. 既存サービスも順調に市場が拡大している。この機に安定的な収益をしっかりと伸ばす

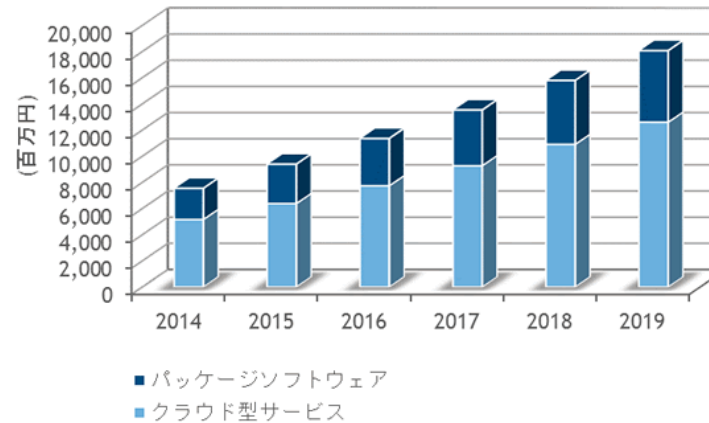




# 市場環境：MDM/EMMの既存サービス市場

**OPTiMのMDM/EMMサービスは  
2014～2019年度のEMM市場の平均成長率（平均19.1%）を大きくうわまって成長中**

OPTiM IoTプラットフォームサービスは、FY2014:55.6% FY2015:58.5%  
さらにEMMをベースとしたOPTiM Storeで成長率拡大を企図



・IT専門調査会社IDC Japanによると、国内エンタープライズモバイル管理ソリューション市場は2015年に94億円、2019年には181億円に達すると予測

※ MDM/EMMの既存サービスの市場は、拡大の一途をたどる予想。

・現在はデバイス管理のみの利用がほとんどであるが、今後モバイルアプリケーションの活用拡大によってアプリケーション管理のニーズが高まると予測

※今後、MDM/EMMの既存サービスの市場に加えて、OPTiM Storeのニーズが高まることが予想されます。エンタープライズ市場においてARPU（英語：Average Revenue Per User、加入者一人あたりの月間売上高）を拡大させていきます。

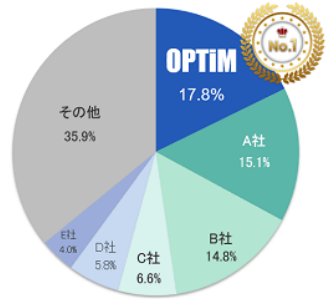
出典：IDC Japan 国内エンタープライズモバイル管理ソリューション市場予測（2015/10/7）



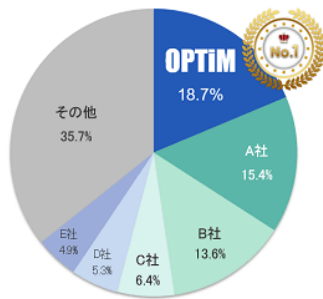
# 1. 既存サービスも順調に市場が拡大している。 この機に安定的な収益をしっかりと伸ばす

MDM・PCマネジメントサービス「Optimal Biz」、  
IDC Japan株式会社が発表した調査レポートにて、  
EMMソリューション市場売上金額シェア2年連続1位を達成  
(2016/4/8)

国内エンタープライズモビリティ管理  
クラウド型サービス市場 2013年度売上額

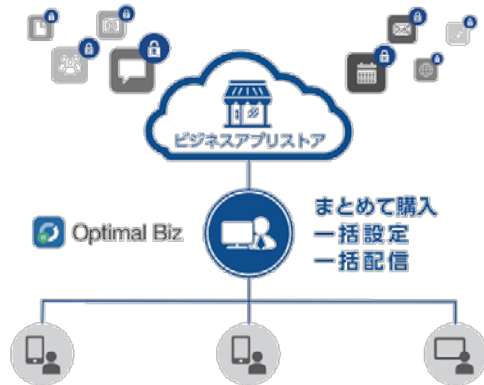


国内エンタープライズモビリティ管理  
クラウド型サービス市場 2014年度売上額

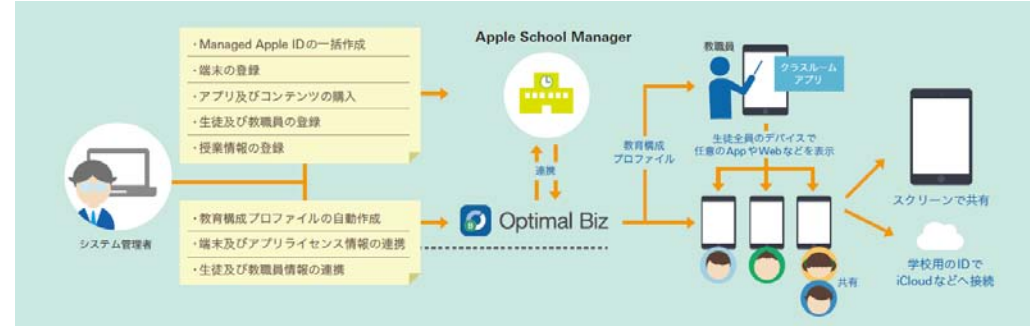


出典：IDC Japan, 2015年9月  
「国内エンタープライズモビリティ管理ソリューション市場 2014年の分析と2015年～2019年の予測」  
(1515370107)

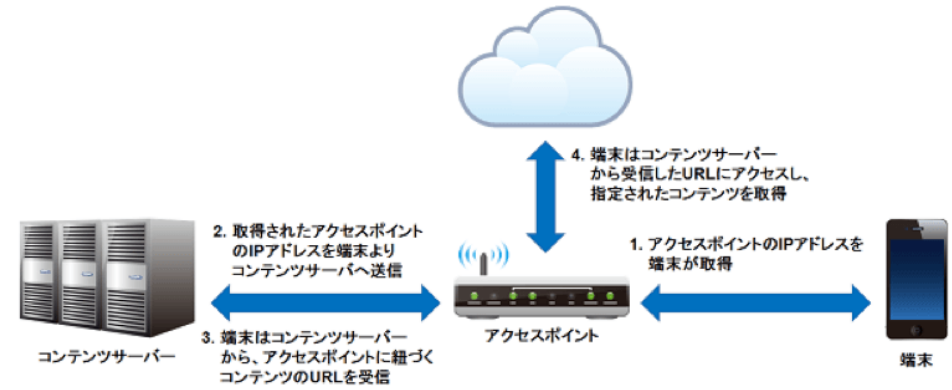
法人向けセキュア・マーケットプレイス「OPTiM Store」を  
カスタマイズし、兼松コミュニケーションズが提供する法人  
向けサービスストア「KCS Business App Store」を正式提  
供開始 (2016/7/28)



Appleが提供するApple School Managerをはじめとした、  
iOS 9.3における教育向け機能に対応したMDM・PCマネジメ  
ントサービスOptimal Bizを提供 (2016/5/26)



IoTデバイスを時空間で管理する概念「Zone Management」に  
て、  
新たな基本特許技術を権利化 (2016/9/7)





# 成長戦略3つの柱

## ■ リモートサービス

新型ハードウェア「Telepathy Walker」をベースとした「Remote Action model W」を新たに発表（2016/6/8）



SOMPOホールディングスグループのフレッシュハウスに、世界初の遠隔作業支援専用スマートグラス「Remote Action」を提供（2016/11/17）



## ■ 雑誌読み放題サービス「タブホ」

販売パートナーを拡大：セブンイレブン、ローソン、サークルK、サンクス、ミニストップ、ファミリーマートなどのコンビニの他、DMM mobile、ギフトカタログのハーモニックでも販売を開始。また、JALのラウンジでも無料利用を実施。



## 2. 「〇〇×IT」によりITの力で新しい産業基盤を創造する

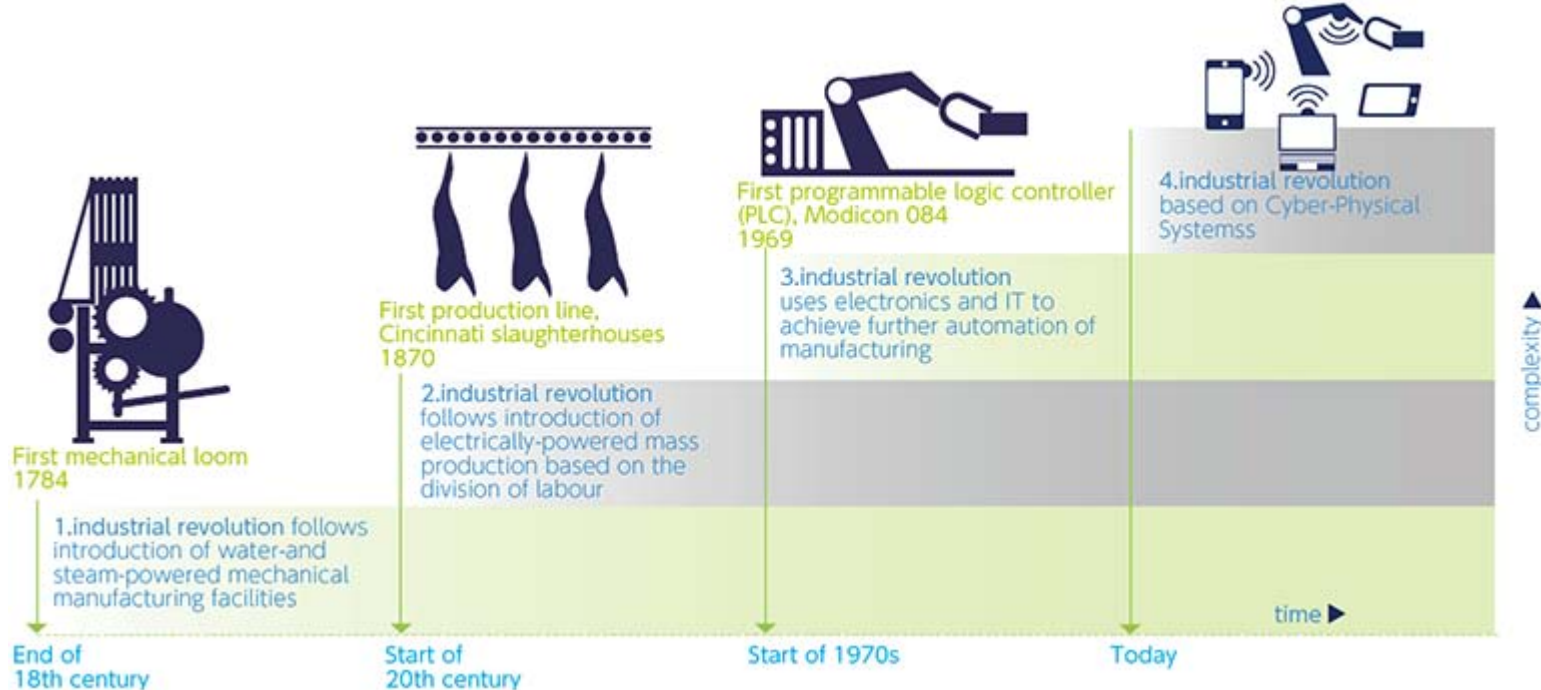
2. IoT/AI/Robot分野への投資を強化し、第4次産業革命の中心となる企業となる。また、あらゆる産業とOPTiMの持つIoT/AI/Robotテクノロジー・ノウハウを融合させる「〇〇×IT」によりITの力で新しい産業基盤を創造する



# 市場環境：第4次産業革命とは？

18世紀半ばから起こった「第1次産業革命」は、工場制機械工業により産業・社会を変えました。19世紀には、石油と電力の活用による「第2次産業革命」に至り、大量生産・大量輸送の幕明けとなりました。そして現代においては、ITの発展と生産の自動化などで産業構造が変化する「第3次産業革命」期と定義されています。

では、「第4次産業革命」とは？ その革命によってもたらされるのは、IoT（モノのインターネット）により、すべてのモノがインターネットでつながる世界。たとえば、工場内外のモノがネットワークでつながり、人工知能（AI）が生産を最適化させたり、需要と供給のバランスを加味して、効率的な生産・販売ルートを実行したりする世界。そんな時代が、2025年以降にはやってくると言われています。



(出典) Forschungsunion Wirtschaft und Wissenschaft, Acatech, "Securing the future of German manufacturing industry Recommendations for implementing the strategic initiative INDUSTRIE 4.0 Final report of the Industrie 4.0. Working Group"

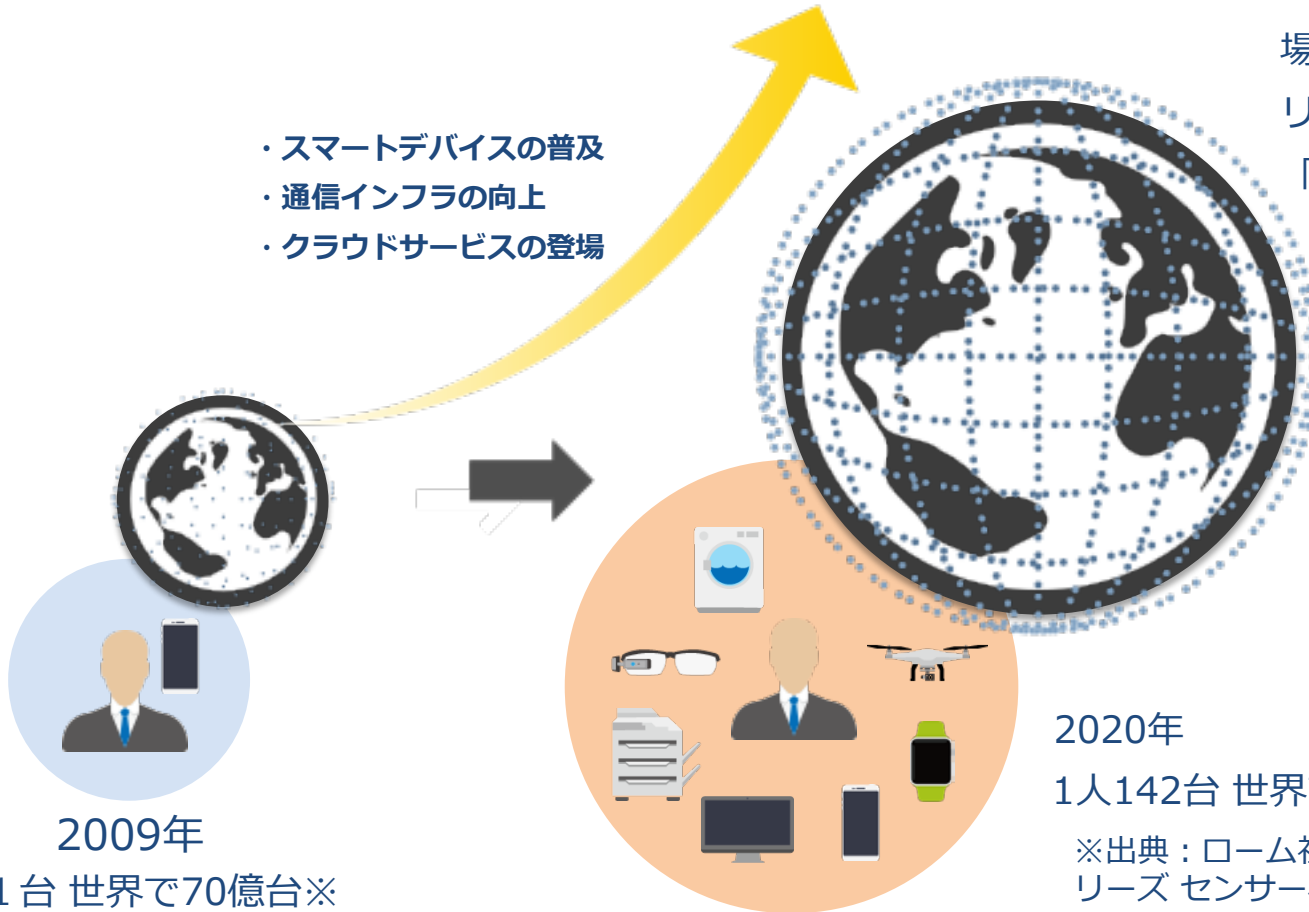


# 市場環境：IoTとは？

IoT（モノのインターネット）の普及により、  
さまざまな「モノ」がインターネットに接続されます

- ・スマートデバイスの普及
- ・通信インフラの向上
- ・クラウドサービスの登場

場所を問わず正確な情報を  
リアルタイムに取得する  
「モノ」が増加



2020年  
1人142台 世界で**1兆台**※

※出典：ローム社「NEハンドブックシリーズ センサーネットワーク 発行 日経BP社」より



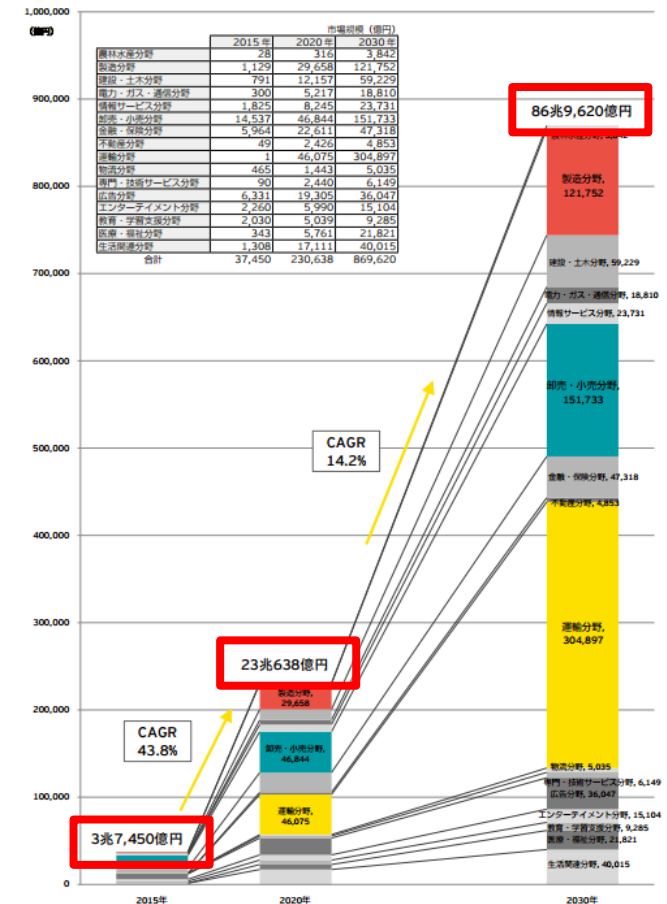
# 市場環境：AIの市場規模

AI（人工知能）の関連市場は、2015年には3.7兆、2020年には23.6兆、2030年には86.9兆にも及ぶとの調査結果もあり、実用化に向けた本格活用が進みつつあります。

第3次AIブームとも呼ばれる今回のブームでは、マシナラーニング（機械学習）やディープラーニング（深層学習）による「特徴量表現」が可能となることで、今までに技術的な解決・応用が難しかったAI分野で大きな技術的ブレークスルーをおこすことが期待されています。

OPTiMでは既に画像解析AIの研究開発に着手しており、あらゆる産業と融合する「〇〇×IT」によりITの力で業界・産業基盤を再構築することに取り組んでいます。

=> 2016年度は画像解析を含むAI分野に注力を行い、技術的なブレークスルーを起こし、新たなビジネス価値の創造を行います。

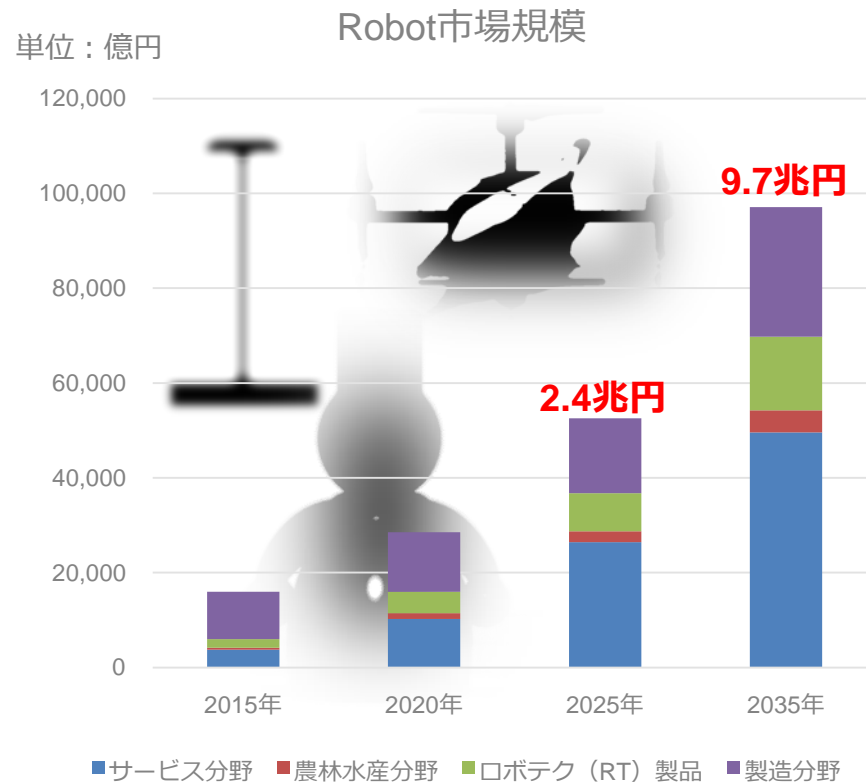


※出典：EY総合研究所「人工知能が経営にもたらす「創造」と「破壊」」より



# 市場環境： Robot分野の市場規模

経済産業省の資料によると、Robot分野の市場規模は、2035年には9.7兆に達するとしています。また、政府「ロボット新戦略」（2015年1月23日）では、ロボットの市場規模を現在の6,000億円から2020年には2兆4,000億円へと成長させることを目標としています。内訳をみると、製造業で1兆2,000億円、非製造業で1兆2,000億円とすることとしています。



出典) 経済産業省「ロボット産業市場動向調査結果」を参考にオプティムにて作成





2015年度には既にあらゆる産業において、IoT/AIの新しいアプローチが始まっています

## 建設（コマツとの業務提携）



## コスメ（パリ開催の Cosmetic360出展）



## 農業（佐賀県・佐賀大学との 産学官連携協定）



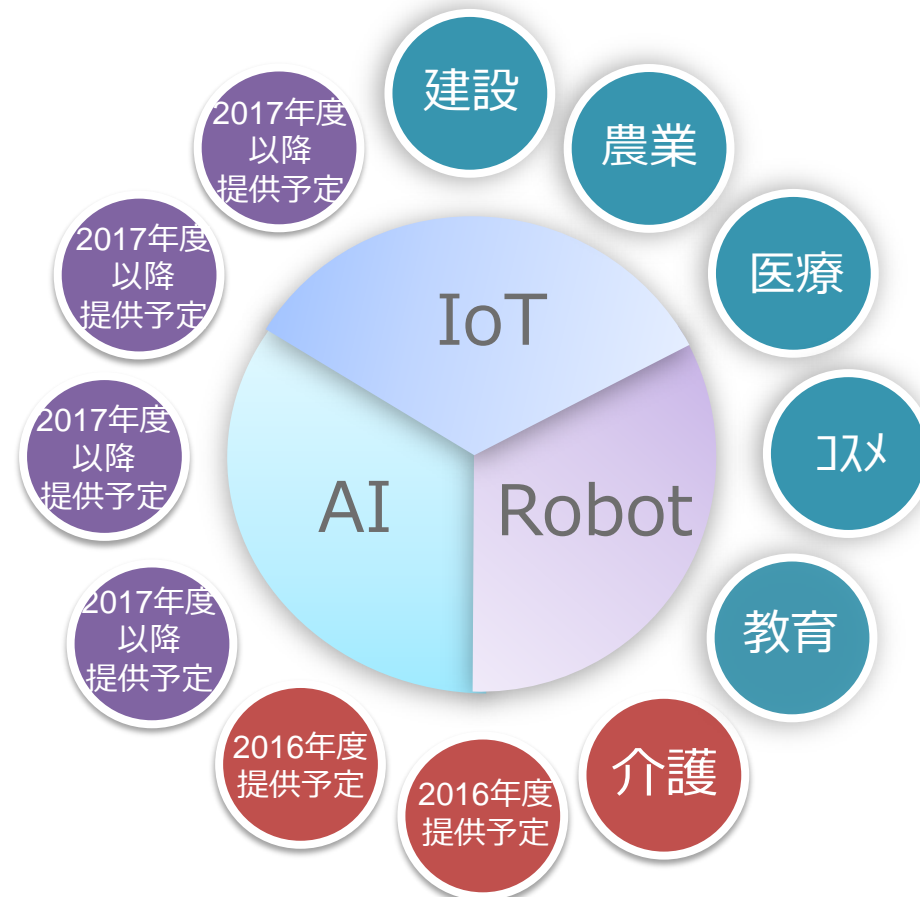
## 医療（MRTとの共同開発）





# 「〇〇×IT」による産業との融合

各業界・産業とIoT/AI/Robotを融合させる「〇〇×IT」により  
ITの力で業界・産業基盤を再構築していきます

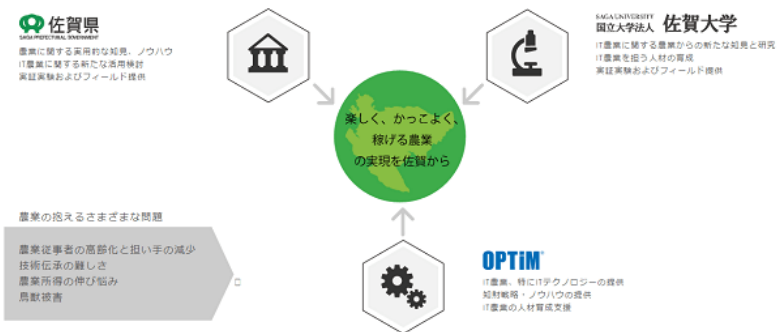




## 2. 「〇〇×IT」によりITの力で新しい産業基盤を創造する

### ■ 農業×IT

佐賀大学農学部・佐賀県農林水産部・オプティムがIoT・AIを活用した最新のIT農業の取り組みや経済効果予測、その効果を最大限発揮するための新型ドローン、ロボットを開発、生産者と消費者をつなげる野菜の新しいコンセプト「スマートやさい」などを発表 (2016/6/7)



### ■ 医療×IT

国内初となるスマートフォン、タブレットを用いた遠隔診療・健康相談サービス「ポケットドクター」、どこでも再診が受けられる「かかりつけ医診療」サービスを提供開始 (2016/4/28)



### ■ 農業×IT

佐賀大学農学部、佐賀県農林水産部、オプティム、殺虫機能搭載ドローンを活用し、夜間での無農薬害虫駆除を目指した実証実験に世界で初めて成功 (2016/6/15)



### ■ 医療×IT

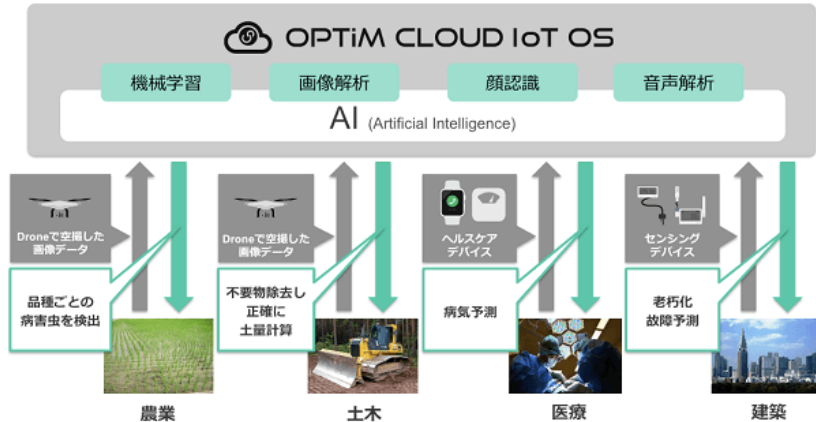
国内初となるスマートフォン、タブレットを用いた遠隔診療・健康相談サービス「ポケットドクター」、2016年7月5日より全国の専門医から健康相談が受けられる「予約相談」サービスを提供開始 (2016/7/5)



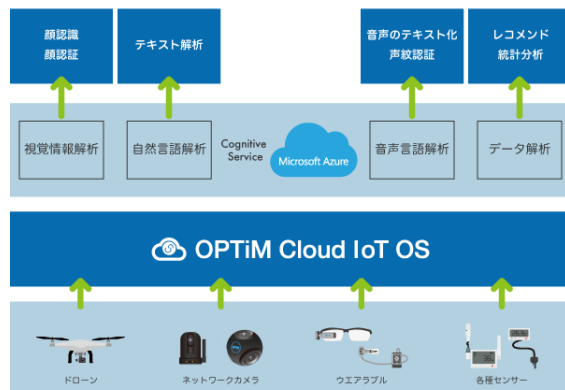


## 2. 「〇〇×IT」によりITの力で新しい産業基盤を創造する 実績①

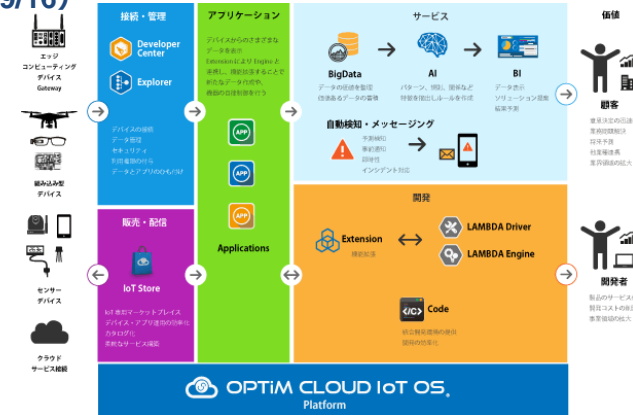
研究開発によるAI (Artificial intelligence) の知見を活かし、AIコンサルティングサービスの提供を開始 (2016/5/18)



OPTiM Cloud IoT OSがMicrosoft Azureと連携し、AI・IoTの導入・活用など幅広く対応 (2016/10/25)



Cloud IoT OSの提供を開始  
パートナーはIoTプラットフォーム基盤を活用による効率的な開発可能となり、さまざまな産業分野でのサービス構築・応用を素早く実現 (2016/9/16)



「2016 Japan IT Week 秋 IoT/M2M展」のブース内セミナーにて、空席状況をリアルタイムに検知して、OPTiM独自のAIがTwitterから空席状況をつぶやくデモンストレーションを実施 (2016/10/27)



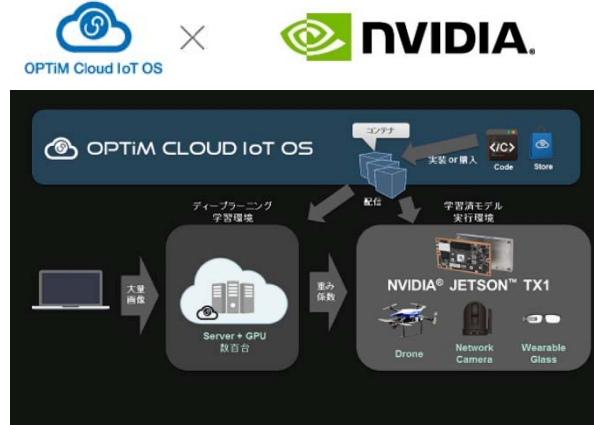


## 2. 「○○×IT」によりITの力で新しい産業基盤を創造する 実績②

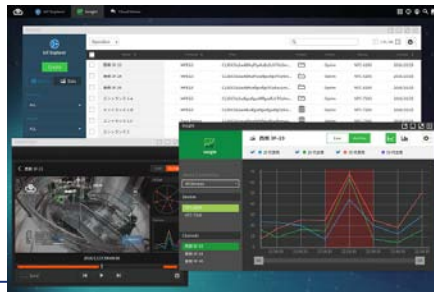
バイタルデータをAIにより分析し、遠隔医療や予防医療の発展を強力に支援 (2016/10/13)



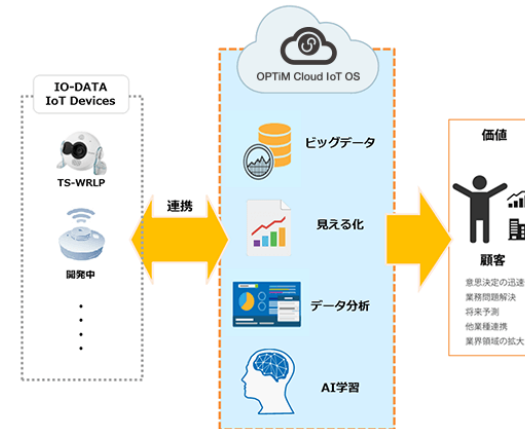
「OPTiM Cloud IoT OS」、画像解析分野において世界初のモジュール型組み込みスーパーコンピュータ「NVIDIA Jetson」と連携し、エッジコンピューティングによるデータ処理の最適化を実現 (2016/10/17)



兼松コミュニケーションズが提供しているNetComm Wireless社製 グローバル M2M ゲートウェイ「NTC-6200」シリーズに「OPTiM Cloud IoT OS」が対応 (2016/10/18)



IoTネットワークカメラを皮切りに各種デバイスと、「OPTiM Cloud IoT OS」との連携を推進 (2016/10/21)





## 2. 「〇〇×IT」によりITの力で新しい産業基盤を創造する 実績③

サービス開始時点で48社とのアライアンスを実現




# 医療×ITの今後のビジョン

## 遠隔医療の推進（政府方針）

- 経済財政運営と改革の基本方針2015
- 情報通信機器を用いた診療（いわゆる「遠隔診療」）について



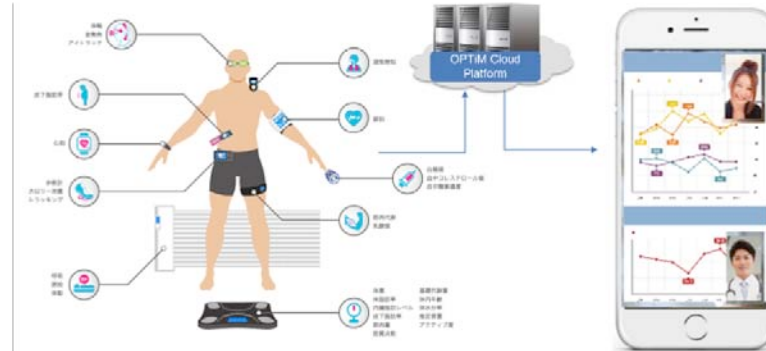
医療情報のプラットフォームを提供するMRTと国内初となる遠隔診療・健康相談サービス「ポケットドクター」の提供を開始

## クラウド、IoTの活用で、時間も場所も選ばない医療へ

自宅に居ながら診察、健康診断、検査、薬の処方が受けられる



出典）日経デジタルヘルスが提唱するソーシャルホスピタルの概念図（イラスト：楠本礼子）  
※時間も場所も選ばない医療のイメージ図です。



ヘルスケア機器、ウェアラブルデバイスとの連携



# メディカルIoTプラットフォームの構築

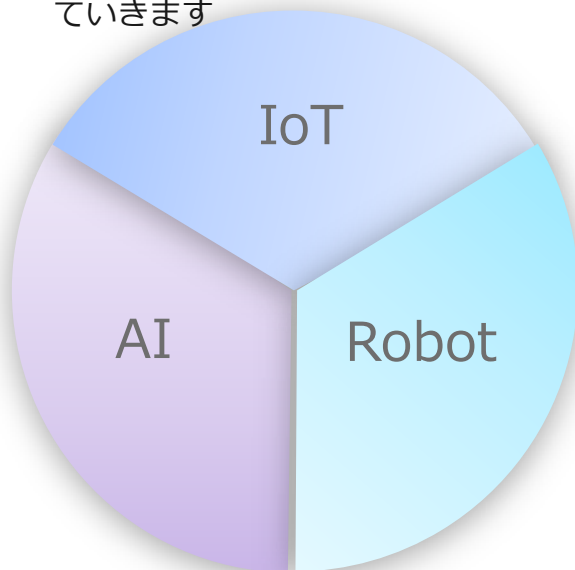
更に今後は、医療機関と連携し、「Cloud IoT OS」、「Optimal Second Sight」の2つのプラットフォームを組み合わせ、メディカルIoTプラットフォームの構築を行う予定です。メディカルAIサービス、メディカルRobotサービスなどを用いて、遠隔医療の高度化を行い、遠隔医療の推進を行なっていきます。

## メディカルIoTプラットフォーム

今までインターネットに接続されてこなかった医療機器や医療データを接続することで、あらゆる医療に関連する課題を解決することを目指していきます

## メディカルAIサービス

検査データ、画像データをAIにより解析し、今まで専門家でしか発見することのできなかった、症状と病理の相関性を自動的に発見することを目指していきます



## メディカルRobotサービス

IoTやAIにより得られた知見から、Robotを活用して物理的な医療支援を行うことを目指していきます



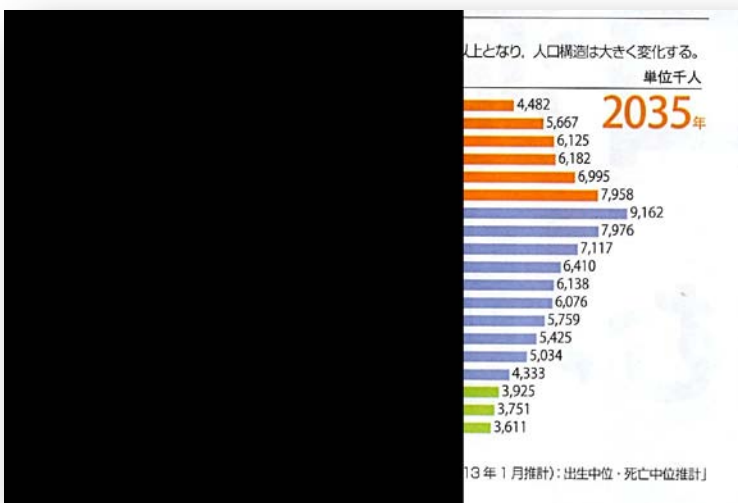
85歳以上の人口は、2035年には1,014万人へ（1990年は112万人）

それに伴い、85歳以上の要介護者は、456万人にも達する

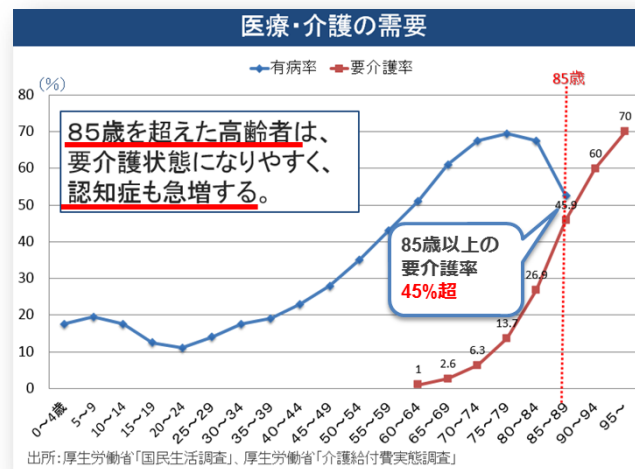
また、労働人口は1990年の7,600万人から2035年には5,900万人に減少する※1

**つまり対労働人口介護率0.6%（1990年）から7.7%（2035年）と12.8倍に急拡大**

高齢者は増加の一途



85歳以上の医療、介護の需要増

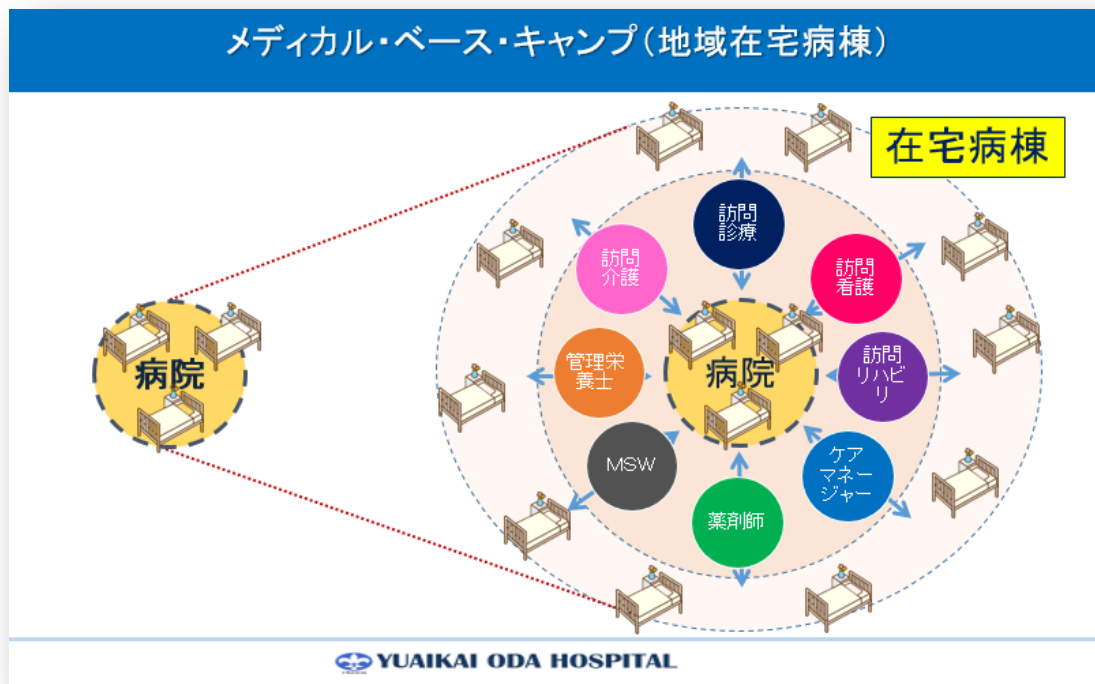


医療サービスの需要は増加し、働き手は減少していくが、

25年政府目標、病床数を最大20万削減（全体の139万を119万に削減）30万人を自宅や介護施設に（出典：2016/6/15付 日経新聞）

## (対策事例) 織田病院様：メディカルベースキャンプ

国の方針でベット数が増やせない中、在宅医療を推進し、患者の自宅ベットをバーチャルな病棟にみたくて、より多くの高齢患者の受入を実現する取組みを実現しています



織田病院（佐賀県鹿島市）は、日本医療機能評価機構の認定病院の中で、亀田病院（千葉県鴨川市）とならび、もっとも評価が高かった。 ※出典：日経実力病院調査2010より

### 県が25年度の医療構想

## 病床数3割、4300床削減

佐賀県は30日、田塊の世で各都道府県に取りまめ、代が全75歳以上の後期高齢者になる2025年度の医療供給体制を示す「地域医療構想」を策定した。必要病床(ベッド)数は現状の約1万3300床から約4300床(32.2%)削減し、機能再編を進めるとともに、医療と介護の連携強化、在宅医療の充実に取り組む。

佐賀県には急性期が約5700床あるが、25年度の必要数は約2600床に激減する。一方、現状で約1200床ある回復期の必要数は約3千床に増える。構想では、急性期から回復期への転換を促すため、施設整備に必要な財政支援などに取り組むとした。

「構想は、現在の療養病床に相当する「慢性期」の4種類に分類した。」

「医療従事者の確保、要請」

「して」病床機能の分化、連携の推進」「住み慣れた地域で最期まで暮らせる地域包括ケアシステムの構築」

を掲げた。必要な病床数のほか、看護職員の離職率低下など八つの指標を設定し、検証できるようにした。(栗林賢)

佐賀新聞  
平成28年3月31日(木)

国の政策に伴い、自治体も具体的に病床削減に乗り出している

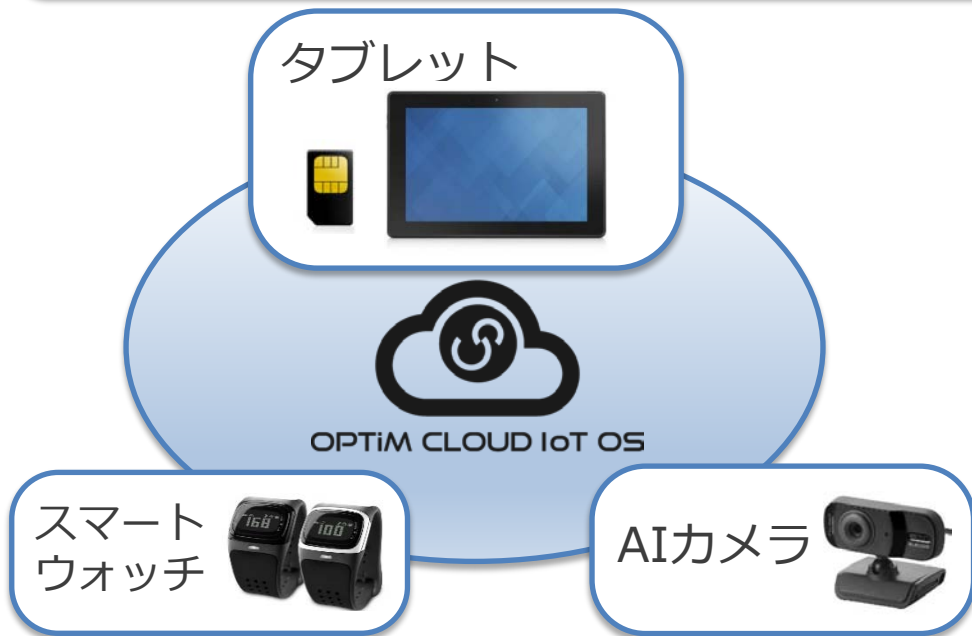


# 在宅医療におけるIT化（IoT・AIの活用） が必ず必要な時代になる

## 在宅医療あんしんパックの実証実験開始

# 在宅医療あんしんパックの提供を開始 (2016/10/26)

在宅医療に必要な 遠隔診療機能、お声がけ機能、転倒などの異常検知機能、ナースコール機能などを備えた自宅に居ながら病院内で医者さんや看護師さんに見守ってもらっているような状態を実現するためのパッケージ。



機器	機能
タブレット	<ul style="list-style-type: none"> <li>お声がけ機能</li> <li>遠隔診療 (かかりつけ医診療機能)</li> </ul>
AIカメラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>転倒検知 (AI画像解析)</li> <li>長時間不在検知 (AI画像解析)</li> </ul>
スマートウォッチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナースコール機能</li> <li>バイタルデータ収集機能 (心拍数、歩数、消費カロリー)</li> </ul>

(1)お声がけ機能



(2)遠隔診療機能



(3)転倒検知



(4)長時間不動検知



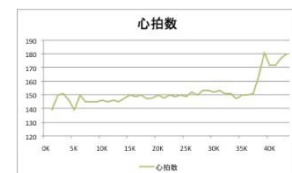
(5)長時間不在検知



(6)ナースコール機能

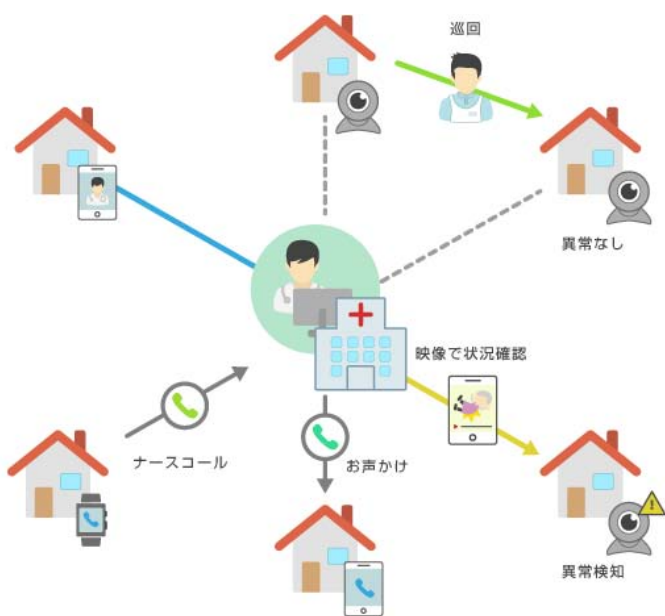


(7)バイタルデータ収集機能





## 「OPTiM Cloud IoT OS」のAI解析機能と連携し、 高齢化大国日本が抱える社会的課題にAI・IoTを用いたソリューションを提案



**MBC**

緊急対応の進捗: 10件 (緊急 3件, 注意 7件)

対応の進捗: 84件 (対応が必要 36件, 確認中 24件, 対応中 18件, 対応済 6件)

緊急アラートと連絡事項の推移

緊急対応

緊急 ⚠️ ○○太郎さん 転倒の可能性あり 14:32

緊急 ⚠️ □□二郎さん 血圧の急激な上昇 14:30

緊急 ⚠️ ××三四郎さん 室温が30℃を超えました 14:30

おしらせ 18件

対応 〇〇太郎さんの遠隔診療 完了 14:30

〇〇〇二郎さんからのナースコール 対応 14:30

済 ×××三四郎さんの遠隔診療 完了 13:25

緊急対応 14:30

織田病院 内科 2016年12月30日(月)

マルマル クロフ

太郎

72歳 Rh+ AB

120 5

緊急アラート

内容

ベッドから転倒した可能性があります。ご家族への確認と、担当者への連絡が必要です。

体温・脈拍の履歴

経過観察

患者 1 脈拍

△△一郎 67

□□二郎 68

〇〇太郎 12

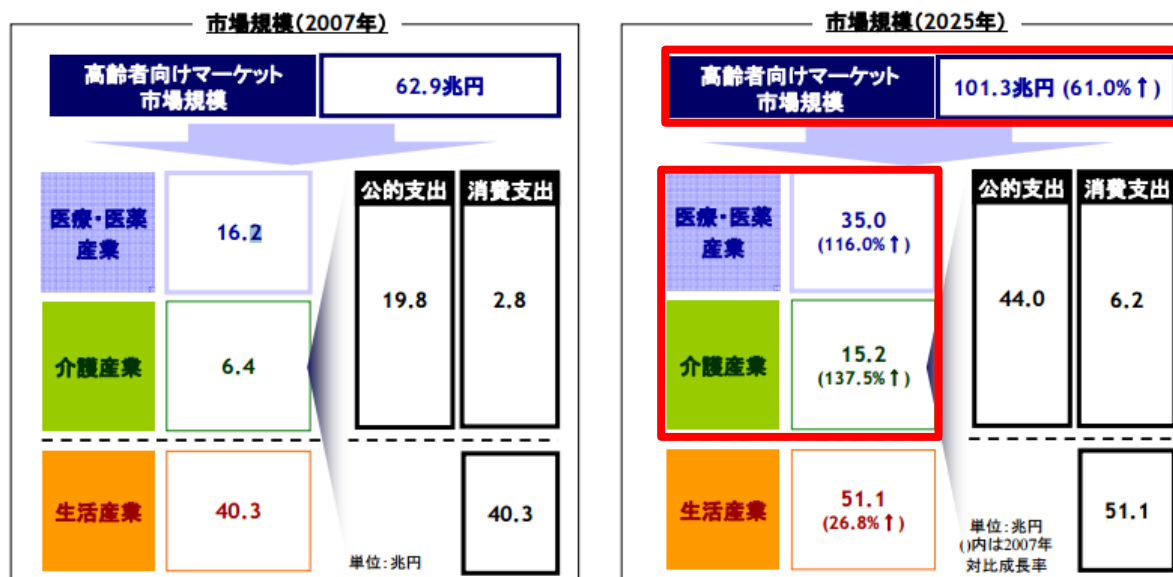
××三四郎 11

☆☆五郎 62

# 高齢者向けマーケットの市場規模

政府は、団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年に向けて、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で介護や医療、生活支援サポートおよびサービスを受けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を目指しています。

高齢者向けマーケットの市場規模も101.3兆円、うち医療・医薬産業は35兆円、介護産業は15.2兆円との予測もあり、さまざまな企業による取り組みが行われています。さらに、「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、政府は在宅医療を推進しており、慢性疾患を患っていても在宅でも安心して生活できる環境を整える必要があります。



(出所) みずほコーポレート銀行産業調査部作成  
(注) 2025年はみずほコーポレート銀行産業調査部予測

(出典) みずほ銀行、みずほ産業調査 Vol.39 2012年発行「特集：日本産業の中期展望」より



# AIの研究開発例

2015年度に発表した、Cloud IoT OS上で動作するAIを用いて、様々な業界への展開を行なっています。

## OPTiM CLOUD IoT OS

機械学習

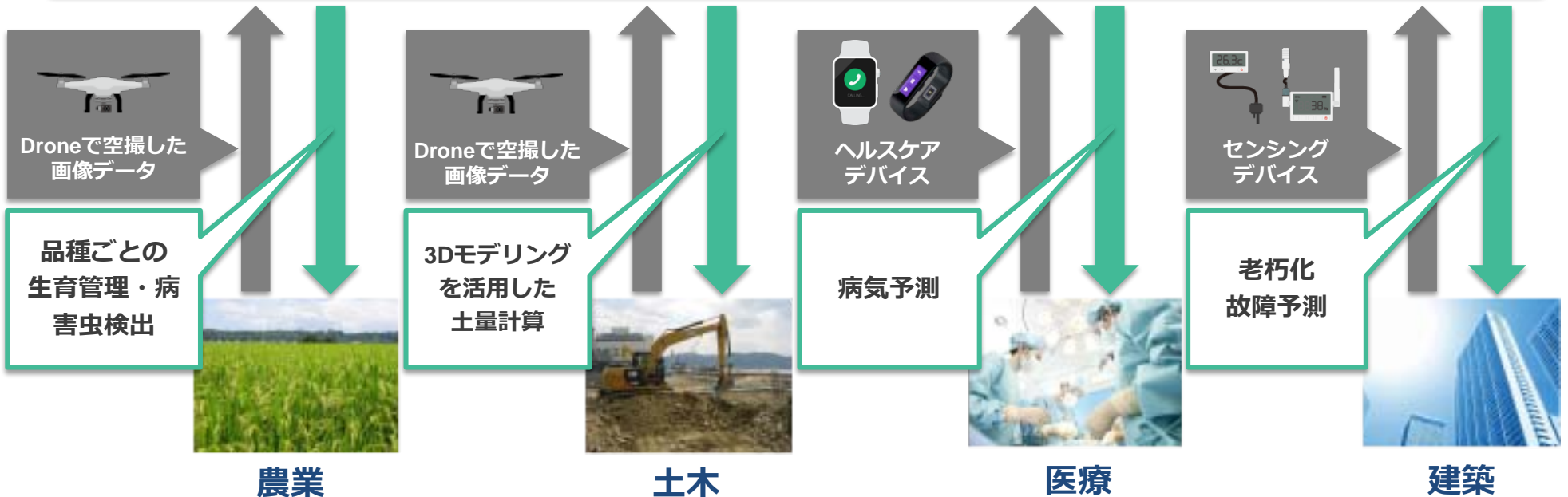
ディープ  
ラーニング

画像解析

顔認識

音声解析

AI (Artificial Intelligence)





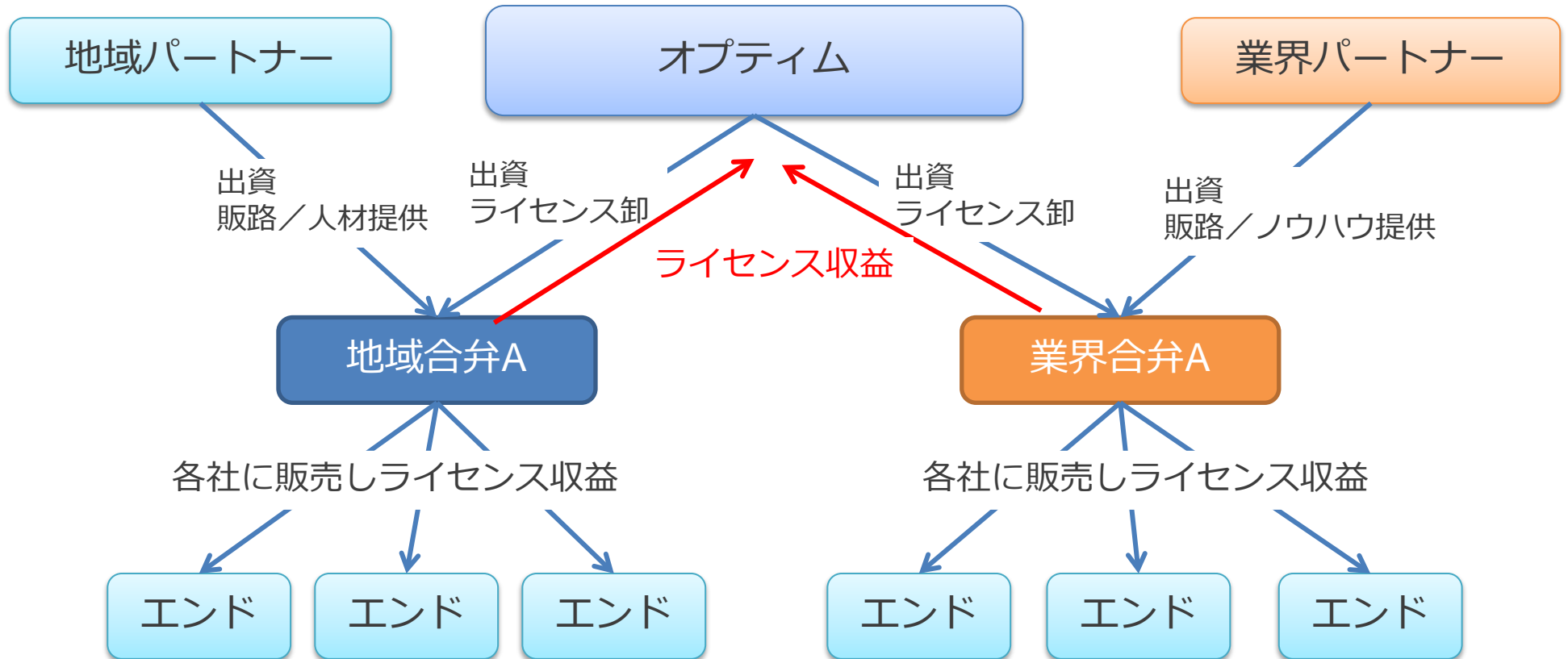


3. 合併会社設立による営業力強化による販売拡大、新サービスの創造を推進する



# 合併会社戦略

地域パートナー、業界パートナーとの合併会社を通じて、OPTiMのライセンス（サービス/技術）を提供していきます。販売の拡大、新たなサービスの提供を行います。





# 2017年3月期 業績見通し



OPTiM Cloud IoT OSで  
国内デファクトスタンダード獲得を行うための  
集中投資を行い  
第4次産業革命において中心的な役割を果たす  
企業となるための1年とする



# 2017年3月期 通期業績見通し

(単位：百万円)

勘定科目	2015年度 実績	2016年度 予想	前年比
売上高	2,620	3,200	122.1%
営業利益	538	640	118.9%
経常利益	539	640	118.5%
純利益	289	434	150.0%

- 2017年3月期の業績は、創業来17期連続となる過去最高売上高、6期連続増益を目指す。既存サービスの安定した成長による、売上32億（前年比売上高122%）、利益6.4億（ROE20%）は達成可能な見通しです。
- 第4次産業革命に向け、OPTiM Cloud IoT OSで国内デファクトスタンダード獲得し第4次産業革命をリードする企業を目指す。そのためにIoT/AI/Robot分野に集中投資を行い、基盤を整える1年としていきます。
- 売上、利益ともに新規サービスの受注により拡大の可能性を残す。なお、計画値と乖離が生じた場合には、速やかに開示します。
- ただし、第4次産業革命に向けた事業展開を行う中、更なる事業機会を発見した場合には、計画値にとらわれず大型な投資も行い、速やかに開示します。